

邦品歐洲市場征服

▽ 黃禍の呪咀あがる

【東京十六日】永井駐獨大使の報告によると今度獨逸經濟省では日本から輸入する綿布は、紗の一部について政府の許可が必要である旨の布告を出したが、又一方一般に日本品の獨逸市場進出問題も論議されるようになり、この傾向はたゞ獨逸一國に限らず歐洲一般若くは白人種共に問題として取扱ひその中には時々黃禍などの文字を使用してゐる、即ち

日本をこんな状態に導いたのは歐洲諸國が徒に政治的抗争にふけつた結果だから、この際斷然政治的紛争を止め、防止手段を探ねば歐洲滅亡の時機が到達する

と論じてゐる、例へばベルリナ

ターダー紙の如きは

日本品地北米中米諸國の極

英領殖民地北米中米諸國の極

東に對する原料品のダンビン

ダグを防ぐべし

と論じ、又勞働機關紙は

歐米の如き先進工業國は日本

へ生産手段の傳授を禁ぜよ

と説いて、たゞ外交政治コレスボ

ンデス通信だけは

日本の發達は日本國民の勤勉

と努力の結果だ

と賞揚してゐる、又青木スペイン

公使からの報告も英佛伊の邦品

と公使からの共同防止にはスペインは

と努力の結果だ

と賞揚してゐる、又青木スペイン

と公使からの報告も英佛伊の邦品

と公使からの共同防止にはスペインは

と努力の結果だ

と賞揚してゐる、又青木スペイン

と公使からの報告も

既報の通り米棉は去年七月一日其他消費現在作付面積四千九十二万九千九百英畝七月末現在エーカーのところ農務省の大英断によつて一千七十八万五千エーカーの大減反対施設され結果三千縮小したこれが爲生産高は従つて減少し、前年の千三百万二千俵、前々年の千七百九十五千俵に對し千三百十七万七千俵となり反の強制なかつたならば一千七百万俵は確實と見られてゐたので農家の收入減も相當額に上つたが米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當生産者有利に傾くであらうと見られてゐる。然るにアメリカ農務當局は第一期棉作は以て二千五百万エーカー減反し最高生産限度一千万俵に止めようとして從つて本年の市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

米棉は輸出される事に對して一定率の税金を納付せしめ之に充てることになつてゐる。然るに米政府はこれが補償のため紡績工場主をして本年市價は相當時に植付けられべき今利で現地去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であつたが若し右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。しかし去七月三十一日現在アメリカの過剩ストックは八百万俵であるが右當局の計画で實現すればこれを五百俵以下に減らすことが出來る筈である。

棉價好轉せん

米棉減收を見越して

生産者の受け利益は年輸出一千二百二十俵と假定して三万六千コントに上る譯である

經濟夜話

北海道の材は爲替安の好

市場へだけでも廿万石の輸出あり業者はホクノものであ

りたが最近イギリス林務當局は「橋材につきやすいベックタスのビードルといふ虫はベストの介する」と研究の結果を發表

解雇手當を逃がれたための雇主に丹後縮緼組合では人絹製品と

厳取締方通告して來た、いま

本年度

州歲出入豫算

聖州政府本年度豫算は賃雇二十

九號を以て發令されたがそれに

嚴取締方通告して來た、いま

本年度賃雇豫算について見るに(單位)

六百コントとなつてゐる、先づ

トならう見るところでは價格の上騰は丁度米棉の今期收穫の出廻る前即ち来る四月以後と目され、それ又恰かも聖州棉の出廻り期は少と消費の増加で米棉の前途好望とされて、そして専門家のよると歲出入とも四十九万二千

は年輸出も相違ないがいかで膨大豫算

徵收率低下

一ミル金貨稅

米金貨稅は本年度

六月一日より

輸出珊瑚好況

世界珊瑚消費高

昨年上半期の

世界珊瑚消費高

モタンクリーム

モジ・ダス・クルーズ

官財收入

租稅收入

輸出珊瑚

珊瑚

モントオ

モントス

モントス

モントス

官財收入

租稅收入

輸出珊瑚

珊瑚

モントス

モントス

モントス

モントス

官財收入

租稅收入

輸出珊瑚

珊瑚

モントス

モントス

モントス

モントス

官財收入

租稅收入

輸出珊瑚

珊瑚

モントス

モントス

モントス

モントス

モントス

モントス

聖州農界一瞥

聖州農界

一瞥

明穂助命のため

強いて外人を抱込み
その一黨頻りに策動す

傍観機を失ふ海興富事者

海興支店移民係明穂梅吉氏の移

民配耕に付てのカラクリに露す

る記事が舊聞來在伯四邦紙上

に發表せられてから

邦人間では寄ると思ふる

が話題の中心をなし、過去二十

年にわたつて培はれた海興配耕

上の弊害を一掃するため最も

當然且つ止むを得ぬ現象であ

らうと一般に見られてゐる、す

なはち大部分在留民の希望する

ところは明穂氏が現在の位置よ

り

身を退く

ことがこの際

最少限度の絶

對必要事と

されてゐるのであるが

督勵して只管世論に逆行し現地

位を死守すべく決心し着々策動

これつとめてゐる

その後

本社の探聞する

ところによれば尾崎

某は去三日アログ

レツソ耕地より出聖の途次バ

ウルにて聖報社を訪問し現地

に同紙は廣告として之を交付

されり直ちに出聖、聖市名に

おいては策動家を以て有名な

某氏の入慧に從つて明穂安

置運動始まり本部を詐欺罪と

して其筋に起訴されちかく公

判に附される身分にあらば将来海

と申合せ書を作成し耕主連

内山總領事 起つ

在聖州の本邦移植民事業の監督官
たる内山總領事は舊聞三十日林大
使と事務打合せのため出府、去七
日夕歸聖したが、明穂問題につき

諸君が移民配耕に關する海興の積弊を一掃するため

といふ意思あることはよく判つたが明穂氏も長年海

興のために働いて來た人で悪いことばかりしてゐた

とはいへ、早速白鳥氏と話して海興側の意向を訊

し充分考慮の上在留民のため一番幸福と認められる

解決方法を探る考へだ

海興配耕の 裏おもて

内山總領事は舊聞三十日林大
使と事務打合せのため出府、去七
日夕歸聖したが、明穂問題につき

はひそかに外人に手をまわし若し海興にしてクビ

にするが如き事あらば將來海

と申合せ書を作成し耕主連

▽ チエテ河に沿ふルツサン

吉井殺し主犯 石光満

吉井殺し主犯は至る所で早速五百ミルを包みを包むより外仕方がないさといふが友人に語つたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

吉井殺し主犯は至る所で早速五百ミルを包みを包むより外仕方がないさといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

吉井殺し主犯は至る所で早速五百ミルを包みを包むより外仕方がないさといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

吉井殺し主犯は至る所で早速五百ミルを包みを包むより外仕方がないさといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

吉井殺し主犯は至る所で早速五百ミルを包みを包むより外仕方がないさといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

吉井殺し主犯は至る所で早速五百ミルを包みを包むより外仕方がないさといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

て明穂氏に願出たところ、そん

て之を引き受けたが、そりや白鳥型配耕する効果をして見るといふことになり包は確か

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XX

São Paulo - Quarta-feira, 10 de Janeiro de 1934

Num. 866

NIPPAK SHIMBUN

Diretor-Proprietário:
SACK MIURA

Redactor da pagina brasileira: José Soárez

Redacção. Administração e Oficinas:
Rua da Liberdade, 144-a e 146
Caixa Postal, 375
Telephone 2-3926
Endereço Telegráfico: "Nippak"
SÃO PAULO - Brasil

ASSINATURAS

Para o Brasil	30\$000
Por ano	30\$000
Por semestre	16\$000
Número avulso	\$500
Para o Exterior	
Por ano	60\$000

Anúncios

Temos à disposição dos interessados uma tabela completa de preços para anúncios nesta folha. Telephone 2-3926

Os primeiros a apreciar o alvorecer de 1934

Segundo informa de Tókio, a agencia Havas, os passageiros do navio "Presidente Pierce", que se encontrava em pleno Oceano Pacífico, foram as primeiras pessoas no mundo a celebrar a passagem do ano novo.

Justamente quando o primeiro dia de 1934 surgiu sobre o meridiano 180, o vapor atravessava esse ponto. Como não há ilhas habitadas na região, os passageiros do paquete norte-americano tiveram o privilégio de ser os primeiros a ver o sol levantar.

Além disso, a mudança de hemisfério permitiu-lhes ganhar um dia e comemorar duas vezes o ano novo.

Baptismo do príncipe herdeiro

TÓKIO, 29 Dez. — Foi baptizado, com grande ceremonial, no palácio do imperador, o herdeiro do trono japonês recém-nascido, que recebeu o nome de Akihito Tsugunomiya. O 125º Mikado será conhecido sob o nome de Akhi...

O significado do nome do herdeiro do trono é: "Nobre herdeiro da benevolência esclarecida".

Realizaram-se em todo o Império festos e manifestações de congratulação.

A cerimónia durou 2 horas. Em seguida os navios de guerra ancorados no porto deram 21 salvas. Simultaneamente as guarnições militares da capital prestaram as honras de esalte.

Os jornais consagram páginas inteiras às celebrações e cerimônias.

Cerca de 700.000 crianças desfilaram diante do palácio.

有機化學
肥料各種
賴信商店

Os automóveis no país

As últimas estatísticas oficiais japonesas sobre os automóveis existentes no país até fins de Dezembro de 1933 accusaram o número de 106.788 veículos.

Notícias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornais)

A população do país

Pelo Departamento de Estatística do Império foi anunciado que a população do Japão próprio era, a 1º de Outubro do ano passado, de 66.288.600.

Esse número revela um aumento de 942.600 em comparação com o total para o mesmo dia de 1932.

A população total havia ... 33.796.400 homens e 33.442.200 mulheres. A população dos distritos urbanos era de 20.914.800 enquanto nos distritos rurais subia a 46.323.800.

Comparados esses dados com os de há um ano, verifica-se que a população urbana aumentou de nada menos de 1.111.000, ao passo que a população rural diminuiu de 168.000.

De vinte e oito cidades, Tókio é a de maior população, com ... 5.486.200 habitantes.

Segue-se Osaka com 2.654.000 e em terceiro lugar Kyoto, com 1.026.900. Em quarto lugar vem Nagoya, com 989.600 habitantes.

As negociações comerciais indo-japonezas

De Nova Delhi comunicam que os delegados japoneses à Conferência Algodoeira Indiano-Japonesa anunciam terem aceitado as propostas apresentadas pelos delegados indianos, pelas quais será permitida ao Japão a exportação de um máximo de quatrocentos milhões de jardas de tecidos manufacturados de algodão, em cada um dos três anos próximos, comprando porém um milhão e meio de fardos de algodão da Índia.

As propostas admitem os acessos de compra, em um ano, poderão ser creditados ao ano seguinte.

O acordo a ser firmado assegura ao Japão o tratamento de "nação mais favorecida", cabendo-lhe o direito de representar diplomaticamente contra qualquer tarifa especial que lhe seja desfavorável.

Não há necessidade de nenhuma sancção legislativa para o acordo, que entrará em vigor muito breve.

O acordo abre um caminho imediato para as negociações anglo-japonezas sobre o mesmo assunto, as quais deverão ter inicio, provavelmente em Londres, dentro de uns quinze dias.

Mandchú-Koku, uma jovem República que se civiliza

Alexandre Konder

Do "Jornal do Brasil" do Rio

A PEZAR de toda a grita que se fez no mundo contra a sua independência, a Mandchúria logrou emancipar-se dos guerreiros que a dominavam e seguir tranquila e brilhantemente a directriz de sejada pelos seus habitantes, que é a estrada do Progresso e da Civilização.

Fechando os ouvidos aos protestos da Liga, os homens que se congregaram em torno de Pu-Yi puseram-se febrilmente em campo, realizando o grande programa que o patriotismo traçou para a velha Patria de Abkai.

E assim, a novel e riquíssima República do Mandchú-Koku depois de um ano de silêncio, pôde agora mostrar aos incrédulos que a sua gente só teve a lucrar com o afastamento das influências de Nankin dos seus destinos.

E de hontem que os jornais noticiaram com abundância de detalhes o que foi a festa comemorativa do primeiro aniversário do reconhecimento da independência mandchú pelo governo de Tókio.

Ao invés de uma parada militar com muitos canhões e muitos soldados, a festa consistiu numa parada esportiva em proporções gigantescas, apontando ao povo os rumos benéficos da cultura física, pedra basica da grandeza futura de uma raça alta que acaba de quebrar os grilhões da escravidão que a amarravam aos caprichos do irrequieto filho de Chang-Tso-Ling. A festa do primeiro aniversário do reconhecimento foi, desta maneira, a maior pro-

Continua aumentando a exportação

Foi anunciado pelos órgãos oficiais do governo um aumento de 33 por cento no volume do comércio exterior, no ano p. p. em relação ao de 1932. Isto é, acenúia que o Japão marcha à frente das demais nações no caminho do reerguimento económico.

O comércio com os Estados Unidos foi cerca de duas vezes maior. O valor total dos intercambios commerciais elevou-se a 3.677 milhões de "yens", contra 2.768 em 1932. A exportação de tecido de algodão melhorou de 32,5 por cento e ameaça ocupar o lugar da seda bruta, que encabeça as listas das mercadorias nipponicas exportadas.

Construção de aviões

Notícias vindas de Tókio, via Londres, anunciam que as fábricas japonesas de aeronaves trabalham dia e noite para satisfazer às encomendas do governo, que inscreveu no orçamento do presente exercício os créditos necessários para a construção de 800 aviões militares.

Além disso, o pedido de aparelhos civis aumentaram extraordinariamente.

O telegramma acrescenta que a capacidade de produção das fábricas japonesas passou de 300 para 1.000 aviões por ano.

Acha-se enfermo o general Araki

O ministro da Guerra, general Sadao Araki, acha-se gravemente enfermo guardando leito desde a semana passada, atacado de pneumonia.

As últimas informações dizeram o notável general experimentado sensíveis melhorias.

A questão tarifaria Inglesa

O embaixador da Inglaterra em Tókio, sr. Francis Lindley, esteve no Ministério dos Negócios Estrangeiros, afim de tratar da questão das tarifas.

Nessa conferência, o sr. Shigematsu, sub-secretário do Estado chama a atenção do representante da Inglaterra para o carácter discricionário das novas tarifas impostas pelo governo da Índia a certas qualidades de mercadorias, facto esse que collocou em vigor dispositivos protecionistas em vários países, inclusive na Índia Britânica e nas Ilhas Filipinas.

A despeito dessas circunstâncias, parece ter se registrado um considerável alívio na tensão americano-japonesa após a mudança da administração em Washington.

Em meados de dezembro, quando Washington se viu absorvido pela crise bancária de que há lembrança.

Emergindo da crise em meses de relativo reerguimento, este país desenvolveu um novo espírito nacional peculiar.

A opinião pública acusou-se com a perspectiva de um programa de construção naval, registrando-se uma atitude quasi apática ante os acontecimentos mais palpáveis em outros pontos do globo, em estranho contraste com a atitude de há um ano atrás.

A visita do visconde Ishii a Washington antes de partir para a Conferência Económica Mundial, de Londres teve uma influência tranquilizadora sobre as relações internacionais.

O Japão confessou sua resolução de manter a política de "porta aberta" no Estado da Manchúria, e o considerável comércio de exportação do algodão bruto foram outros factores de importância na manutenção da opinião comercial sensível à alta importância das relações amistosas no Pacífico.

No Novembro o reconhecimento por parte dos Estados Unidos da Russia dos Soviets suscitou uma nova onda de interesse em torno das perspectivas da distribuição do poder político na área do Pacífico.

Alguns observadores

Foi registrado um considerável alívio na tensão nippo-americana

As ultimas notícias transmitidas pela United Press sobre a tensão que reinava entre os Estados Unidos e o Japão são bastante tranquilizadoras. Eis um dos últimos comunicados:

WASHINGTON, 31. Dez. — O crescente poder militar e comercial do Japão constituiu o facto capital da história do Pacífico durante o ano de 1933, e as chancelarias de todos os países do Pacífico testemunharam a política e a força do Império Nipônico.

A agitação em torno da diminição do "home-rule" em Hawaii e a rejeição por parte das Filipinas do projeto da independência de Hare-Haw-Cuting em Manila foram atribuídas por muitos observadores da situação internacional, como resultantes em parte da tranquilidade local com referência ao papel futuro do Japão dos pontos de vista político e comercial, no Pacífico.

Essas tendências negativas foram todavia afastadas pela atitude do presidente Roosevelt, manifestando-se disposto a fazer com que a frota de guerra voltasse ao Atlântico — oficialmente com o fim de dar aos marinheiros uma oportunidade para visitarem seus lares na costa oriental; mas ao mesmo tempo realizando um gesto de deferência para com o Japão, dada a preocupação desse país ante a concentração duma esquadra norte-americana no Oceano Pacífico.

Seja como for os sines do Ano Novo replicam em despedida de um ano cheio de acontecimentos, mais ou menos perigosos para os timidos e os pacifistas; e apesar de tudo relativamente calmo depois do furacão do Pacífico Oriental durante o ano de 1932.

O mez agricola

JANEIRO

Iniciando-se o novo anno os trabalhos do campo iniciam-se também com alento afim de aproveitar o que resta da estação chuvosa.

Durante este mez fazem-se os seguintes trabalhos nos campos:

Nos lugares altos e quando o tempo não é chuvoso, fazem-se roçadas e aram-se terras para os plantios do mez de março.

Plantam-se: canna de açucar, batata doce, mandioca, algumas variedades de feijões precoces, milhos precoce, sorgo, batatinha, amendoim commun e rasteiro, etc.

Replantam-se o algodão e o arroz e terminam as plantações tardias.

Semeiam-se as hortaliças em geral.

Plantam-se batata doce, batatinha (batata inglesa) e feijão das águas; termina o plantio da canna de açucar. Prepara-se terra para a semeadura de cebolas em fevereiro e o plantio de ervilhas, fava, trigo, centelo, etc., nos meses de maio, junho e julho.

Semeiam-se milho e feijão prececo, principalmente na zona mais quente, espinafre, rabanete, tendo o cuidado de semear com abundância os almacegos, para evitar a tendência a espigas, sendo conveniente evitar sementes velhas pôde-se semear feijão pauvagens. Na transplantação a rega deve ser abundante.

Capina-se as culturas de tabaco, algodão, mandioca, milho, arroz e cana, feitas nos meses anteriores.

Impressos?

Procure a

TYP. "NIPPAK"

Rua Liberdade, 146
São Paulo — — —

O total dos pagamentos efectuados pelo governo

Foi anunciado pelo ministro das Finanças que a totalidade dos pagamentos internacionais efectuados pelo Japão no correr de 1932 ultimo se elevou a 43.669.000 de "yens" contra 149.044.000 em 1931.



Alexandre Konder

Do "Jornal do Brasil" do Rio